

建設労働

〒556-0015
 大阪市浪速区敷津西
 2-7-17
 大阪建設労働組合
 発行責任
 執行委員長 谷内 邦久
 編集 集教 宣部
 一部20円 干別

大建労本部
 TEL 06-6632-2875
 FAX 06-6643-5307
 求職 06-6647-2587
 daikenro@hera.eonet.ne.jp
 大建国保本部
 TEL 06-6631-7112

税金・労災など未加入者へPRを
 春の拡大月間に引き続き、九月一日からは秋の拡大月間がスタート。身近な新入職者や税金申告・労災保険加入などで悩んでいる組合未加入者をぜひ支部まで紹介してください。ご協力をお願いします。

大建労PR動画完成
 大阪建設労働組合では、ramを開発しました。組合を宣伝していく予定の公式SNSアカウント QRコードまたは大建 YouTube・Tik Tok 建労で検索して下さい。是非フォローお願いします。今後はショート動画で

自分の賃金は自分で 声を上げて要求しよう

賃金学習会

【都島支部 高橋雅彦】

十月五日の日曜日、エルおおさか六階大会議室において、賃金対策部主催の「賃金学習会」が十七支部四十二名の参加で行われました。毎年上がる最低賃金、に見えないです。

毎年上がる公共工事の日 しかも三十年前と変わらぬのに何故か私たちの賃金は上がらない。私達の仕事は世間にはそんなに軽く見られている。そこで今回の様な状況を打破するべく、『賃上げチャレンジミッション』という取り組みを立ち上げた全建総連の長谷部賃金対策部長が講演されました。

大建労の賃金アンケータの結果を見ても賃金が急に上がっているように見えます。世間では「建設業界は儲かっている」とも言われている事もあるようですが、大企業・ゼネコンの話と私達の実情が一緒にされているようで憤りを感じます。そこで「労務費(生活できる賃金をちゃんと末端の現場技能者に支払いましよう」というルールが決められましたが、それが簡単に世間に認められ、行き渡るものではないと言ったことで組合は「適正な賃金・労務費を要求しよう」と訴えています。



講演する全建総連 長谷部賃金対策部長

困りごと相談や、世話焼



参加者のみなさん

困りごと相談や、世話焼

帰属意識

【住吉支部 中野昭司】

九月二十八日(日)支部役員・本部主婦の会・事務担当者・本部書記の九人で住吉・住之江・他地区を三班に分かれて組合員宅訪問を行いました。訪問数三十三件に対して、十五人の組合員さんと会うことが出来ました。また、組合に加入していること「帰属意識をもっともつためにも大切な行動です。」



研ぎ手の人もフル回転

今年、新気温は三十度超えで蒸し暑い一日でしたが、楽しい住宅デーでした。

堺支部合同住宅デー

【堺支部 松本千恵子】

九月二十八日(日)新金岡分会、百舌鳥分会の合同住宅デーを開催しました。今年も合同での住宅デーを開催し、研ぎ手さんが参加、協力してくれて、住宅デーというより、地域の「祭り」的な。受付を始める前から、次々と来場者で、研ぎ手の人もフル回転です。今年も合同での住宅デー。たくさんの方々が参加、協力してくれて、住宅デーというより、地域の「祭り」的な。

対話を通じて大建労の魅力PR

【大建労茨木支部発】

十月十二日(日)役員二人と本部書記二人の計四人でコーナンプロ茨木店協力の元、入口近くにブースを設置し、安心ガを聞きに来てくださり、支部へ連絡しますと嬉しいお言葉を頂きました。その後、加入歴二年未満の組合員宅訪問を行いました。留守のお宅もありましたが、早く玄関から出てきて話を聞いて頂きました。国保のみで加入された方も、労災や建退共についてお伝えすると、興味深くお話を聞いて頂きました。今後も、対話を通じて、一人でも多くの組合員さんに大建労の良さを知っていただければ幸いです。



大建労の良さを知ってほしい

大建労の良さを知ってほしい



X



YouTube



Instagram



TikTok

VOICE

戦後80年の節目を迎えた今年、多様な表現を通して戦争の記憶を現代に継承するイベントが各地で開催されている。一つは東京の国立近代美術館での「記録をひらく」記憶をつむぐ」という展覧会。もう一つは前進座公演「笑い事ではありませぬ」という国策落語を扱った芝居だ。近代美術館の展覧会はその名からは想像できない、大衝撃の展覧会だった。美術に蓄えられた記録をもとに新たな戦争の記憶をつむぐことを試みたという。中でも藤田嗣治の「シンガポール最後の日」や宮本三郎の「山下、パール商司令官会見」などの作戦記録画は、軍からの委嘱により制作された公式の記録画で、インパクトは大きい。これらの展示には戦争に関係した諸外国に引きわけて繊細な配慮が必要であることは当然だ。また、戦中はテレビのない時代故に、絵画には媒体としてのパワーがあり、戦意高揚に「役かっ」た。そこには戦争プロパガンダにのめり込み、戦意高揚に加担することになった画家たちが存在する。▼多くはないが、反戦色を持った作品も描かれていたことに観覧者は少し救われる。記録」という役割と、それらを事後に振り返りながら再構成し、「記憶」としての働き継承の在り方を模索する大切な取り組みと感ずるひと時であった。

